

WDSF テクニックブックの改訂新版では、以前の版から多少の内容の変更・追加を行っている。以下にあげる記載は、以前の版における印刷・編集上の誤りを訂正する正誤一覧である。さらに、テクニック解説強化の一環として、改訂新版ではこの一覧にあげたもの以外にも加筆・改訂がなされているが、以前の版の記述を無効なものとするということではない。WDSF が実施するテクニック試験等では、この正誤一覧にあげるもの除去して、以前の版・改訂新版どちらの記載に基づいて解答しても正解と見なされる。

ラテンの原理 (全ての種目)

13 ページ、「ディレイドを使用できるアクション」の項の 2 行目。「チェックト・バックワード・ウォーク」を削除し、代わりに「その場でウォーク」を追加：

14 ページ、コンティニュアス・ спин。3 段落 3 行目「... (スポットティング)。」の後に、追加：

このヘッドの動きの調整は連続的なスピンのスピードが非常に速い場合は省略することができる。(ヘッドはスポットティングすることなく所定の位置に維持される)。

15 ページ、メレンゲ・アクション 7 行目、以下の文に置き換える：

・ヒップはムービング・レッグから反対方向へ動く(フィギュアによってヒップ・デザインは異なることがある)。

17 ページ、表の 2 番目の欄の 2 行目を以下のように修正

(例 ライズの一番高い地点でウェイトをかけて使用)

17 ページ、表の一番下の欄の「トウのインサイド・エッジ」を以下のように追加・修正

トウ・あるいはエクストリーム・トウまたはボールのインサイド・エッジ

18 ページ、表の 2 番目の欄の「トウのアウトサイド・エッジ」を以下のように追加・修正

トウまたはエクストリーム・トウのアウトサイド・エッジ

18 ページ、6) タイミングの項は以下の説明文すべてを置き換える

6) タイミング

チャートに書かれているフィギュアを習得し実践するには、音楽構成の基本的な理解が必要となる。（後述“ダンススポーツの音楽”参照）

タイミング：ステップやアクションを行う上で、テンポ(音楽の速さ)の正しい使い方を示す。これはチャートのステップ／アクション欄ごとに示されている。

ビート・バリュー：ステップ／アクションに用いられる時間の長さ（ビート数で示される）

ダンススポーツではそれぞれのステップ／アクションについてチャートに明確に示されている。

それゆえ、それぞれのステップ／アクションには理論上のビート・バリューがある：

1	1 拍
&	1/2 拍
a	1/4 拍
S	2 拍 (4/4 拍子、例：ジャイブ)、1 拍 (2/4 拍子、例：サンバ)
Q	1 拍 (4/4 拍子、例：ジャイブ)、1/2 拍 (2/4 拍子、例：サンバ)

シャッフル・タイミング：ビート・バリューのわずかな変動は、動作と体重移動を損なわぬために使用される。フィギュアの最

初のステップのタイミングとアクセントは、どのような場合でも尊重されるべきである。チャートを理解する際の標準化されたビートの値は規則ではなくガイドラインとするべきである。シャッフル・タイミングの導入を考慮する際は、チャートにビートの列を含める必要はない。

音楽におけるシャッフル・タイミング。音楽界のアーティストや演技者たちは、高い芸術性のパフォーマンスをするためには、確立された古典的なビート・バリューを柔軟に解釈することが必要であることをずいぶん前から分かっていた。クラシックやジャズ音楽では、このシャッフル・タイミングという原理（時にスwing・タイムと呼ばれている）が頻繁に使われている。ビートの長さは楽譜上、明快さと統一性を保つために、一定の長さが決められているが、その長さはオリジナルの 2 倍にも引き延ばしたり、半分に短縮することができる。これが、ジャンルに関係なく同じ曲であっても演奏するアーティストやその時の演奏により異なる印象を受ける要因である。

ダンススポーツでは、上級のダンサーは身体能力や個人の能力に応じてフィギュアに含まれる各ステップやアクションの時間長を変化させる傾向があるため、ビート・バリューを固定することは上級のダンサーには制約となることが分かっている。

芸術的スポーツであるダンススポーツにおいて、シャッフル・タイミングという考え方は、ダンサーの芸術的・音楽的表現を効果的に増大する上で大いに利点がある。

20 ページ、「テンポ」表の下に、次のサブタイトルの追加、

シンコペーションのルール

26 ページ、13 行目の中頃の「(Fall Pos)」を「(Cnt Fall Pos)」に書き換える

27 ページ、表の上段右欄の 4 行目の「男女の 4 つの 4 本の指は」を「男女の 4 本の指は」に書き換える

30 ページ、8 の字の動きの説明 2 行の後に次の説明を追加、

（軽い自然なインクリネーションを伴って）

30 ページ、逆 8 の字の動きの説明 2 行の後に次の説明を追加、

（軽い自然なインクリネーションを伴って）

31 ページ、下の表のセトルの説明の後に次の説明を追加、

通常、セトルはヒップ・ローテーションとスクワイーズ（ボディ・アクション）を伴う。